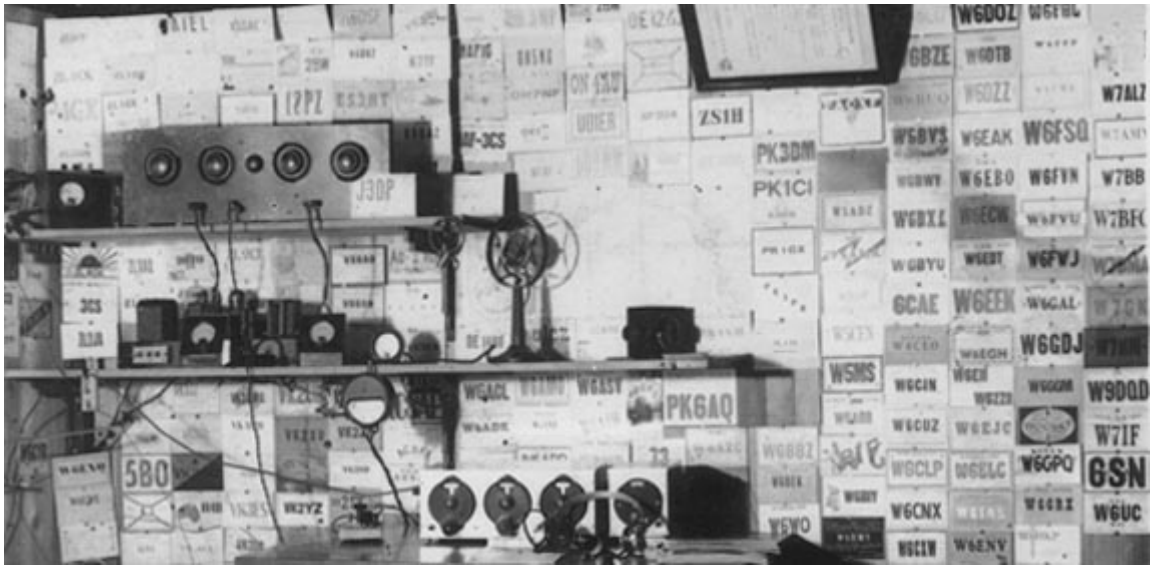
72 年前の ex J4EA の交友から先達の活躍をしのぶ [第１１回]

オールドタイマーが遺した一冊のアルバム

by ***Editor Shinzaburo Kawai, JA1FUY***

▼J3DP 橋詰与惣次郎さんのシャック



（滋賀県彦根）

▼J3EF 山内延夫さんのシャック

（大阪市東淀川区）1934 年

昭和 13 年（1938 年）はどんな時代か？

風にそよぐ電波

■ＭＡＲＬ結成

羅津にＪ８ＣＬ大西千秋さん（陸軍司令部電信所長）がいた。大西さんは応召して広島電信隊にはいったのがきっかけとなり、満州で電信所長のとき、朝鮮茂山電信所長だったＪ８ＣＣ田中勇さんにハムのコーチを受けた。早速ＸＵ３ＣＯのコールサインを使ってＱＳＯしていたところ、逓信省に御用となった。

香山　晃著　電波実験社（昭和 51 年初版）*

「軍隊で通信実験をしたい」といって逃れ、正式に出願をすすめられた。ある参謀から「スパイと疑われるぞ」とおどかされたが「満州で小沢少佐がＭＸ１Ａで出ている」と頼み込み許可をとった。

ツェップアンテナで 14 メガサイクルに出ると、猛烈なパイルアップ、カードはすべてダイレクトで送った。そのころ活躍していた人にＪ３ＦＪ湯浅楠敬さん、Ｊ８ＣＤ長滝良蔵医師がいた。

満州にもアクティブなハムがいた。ＭＸ２Ｂ永野武志さんたちで、仕事がら満州電電や満鉄の関係者が多かった。奉天で昭和 13 年、アマチュア無線の連合体としてＭＡＲＬ（満州国短波無線連盟）が発足した。本部を奉天市平安通２０、奉天中央郵便局私書箱 23 号青島達丸さん方に置き、機関紙などを発行した。

国内では防空演習への参加が続いた。昭和 11 年 10 月、愛知、岐阜両県下で行われた防空演習にＪ２ＣＮ太田寛一さんら十人が防空無線隊として参加。同年北海道での陸軍特別大演習にＪ２ＭＮ西丸政吉さんたち８人が愛国無線隊と名乗って協力した。

隊長がＪ２ＭＪ小沢少佐、隊員が西丸さんのほかＪ７ＣＧ田母上さん、Ｊ７ＣＲ嵯峨昊 さん、Ｊ３ＦＫ塚本照郎さん、Ｊ４ＣＮ大津武義さん、Ｊ５ＣＣ堀口さん、それに受信局の内藤勇二さんであった。
ハムの参加した背景に「非常時」という危機感が働いたことも見逃せない。昭和 12 年９月、東部防衛司令部の行った防空演習には、実に 51 人という多数のハムが、国防通信隊として参加している。 次いで 12 年 11 月の第３師団管区防空演習に、東海支部員 10 人が愛国防空無線隊の名称で参加し、さ

らに 14 年 10 月と 15 年 10 月の関東防空演習にも国防無線隊で名を連ねた。

軍部の息の掛かった通信では、制限時間外に公然と実験ができるという魅力があった。このメリットが純真なハムの心をひきつけたのも事実であろう。たまりかねた逓信省は昭和 13 年 12 月、私設無線電信電話規則を改正し「実験のための通信のほか、逓信大臣の指定（防空など）した通信を行うことができる」とした。ＪＡＲＬ　ＮＥＷＳの昭和 14 年 2 月号は、この問題を次のように受け止めている。

《逓信大臣の指定があったとしても、自分はアマチュアラジオを非常用に活用できると言い切れる人が何人いるでしょうか。和文コードの熟達はいうまでもなく、電報送受の大体のことを飲み込んでおく必要がありましょう》（要約）

（「ハム半世紀」香山晃著　p.80～81　電波実験社より抜粋）絶版

■「ハム半世紀」著者略歴
香山　晃　本名：梶本俔良（かじもと・ちから）　昭和 2 年大分県に生まれる　31 年読売新聞大阪本社に入社　大分支局、報道部を経て西部本社連絡部勤務

JARL NEWS 1939 年 FEBRUARY 第 78 号より

私設無線電信電話規則改正に関して

- J2JJ　大河内　正陽 –

昭和 13 年 12 月 26 日付を以って規則改正が行われました。逓信局よりの書類によってすでにご承知でありましょうが、主要の点は、
１．私設無線電信電話に使用し得る電波型式の種類を 7 種類に改め、これが定義をそれぞれ改められたること。（第 16 条）

２．実験用私設無線電信電話は実験のための照復のほか特に逓信大臣に於いて指定する通信に於いて指定する通信にこれを使用し得ることとなりたること。（第 49 条）

３．実験用私設無線電信電話による電波の発射に当たり調整符号の送信は 10 秒間に制限せられたること。（第 57 号）

の 3 項目です。この中我々にとって特に重要なる改正は第 2 の 49 条の改正です。即ち逓信大

臣に於いて指定があるならば実験以外のなんらかの目的に対しても通信することができるのです。

一例を挙げるなら今まで防空演習参加に際しても変則的の方法をとらざるを得なかった我々も、この改正によってもし逓信大臣の指定を得るならば堂々と演習通信を行い得ることになったのです。

JARL NEWS

「私設無線電信電話規則改正に関して」と題したＪ２ＪＪ　大河内さんの記事が掲載された JARL NEWS 1939 年 2 月号　第 78 号*

ここに於いて我々は非常時に於けるアマチュアラジオに対する覚悟をさらに明確に自覚せねばなりますまい。逓信大臣の指定があったとして、非常時に直面したとして自分はアマチュアラジオを非常用とし活用できると言い切れる人が現在一体何人いるでしょう。

和文コードの熟達は言うまでもないこと、電報送受の大体の要領を飲み込んでおくことも必要でしょう、平時からコンテストその他による訓練、演習も大切でしょう。要するにこの規則改正よって明確に提示された、なさなければならない準備に対して我々は計画を立てて行かねばならないのです。

（編注：現代仮名遣いに変更しました）

▼J2CG 林太郎 ミュージアム（４）

1931-1979 に活躍された J2CG　故林太郎さんの遺品の一部を YAHOO オークションで落札された岩岡氏（JG1AKM)のご好意により「QRA　BOOK」　「QSL カード」　「戦前の JARL　NEWS」など貴重な資料を QTC-Japan.com に寄贈いただきましたので、その中から珍しいカードを順次ご紹介して参ります。

J6CG　菱沼益男さんの QSL カード
1931 年

J6DO　栗林幸生さんの QSL カード
1936 年 9 月 14 日の交信証

[参考文献]

「アマチュア無線のあゆみ（日本アマチュア無線連盟 50 年史）」　日本アマチュア無線連盟 50 年史編集委員会編
「日本アマチュア無線外史」　JA1CA 岡本次雄、JA1AR 木賀忠雄　共著　電波実験社
「ハム半世紀」 香山晃著　電波実験社
「JARLNEWS 1937 年 10 月号」第 66 号　J2CG 林太郎氏の遺品から（JG1AKM 岩岡氏提供）

編注：故人を付すること並びにコールサインに EX をつけることを省略しています。

de JA1FUY